



## 里親編 - セッション2 「自己評価の質問」

1. 里子を迎え入れるために、里親は、
  - a. その子のために部屋と生活の必需品を用意する。それで十分である
  - b. 生活面での物理的な準備と、里子が家族に馴染めるよう手助けするための心の準備をする
  - c. 準備として、家族以外の人による里子の生活への関わりを避けることで、さまざまな意見が飛び交うことによる里子の混乱を防止する
  - d. 友人などに里子を迎え入れることについて話すために、里親を支援する専門家に連絡を取る。これは専門家のみが里子養育の詳細と正しい方法を知っているからである。
2. 里子を迎え入れる前に家族内であることが重要なのは、
  - a. 家庭生活に関係する家族全員、友人、要人（学校の先生など）に参加を求めることであり、家族の価値を理解するために、家族全員で話し合うことである
  - b. すべてが円滑かつ自然に進むため、特に準備する必要はない
  - c. 家族会議を1時間設けるだけで十分である
  - d. 家庭での里子の生活を有意義なものにするために、里子が家庭であることを最大限に用意することである
3. 家族の外で人々と関係する際に、里親がすべきことは、
  - a. 自分が里親になることを知っている人は少ない方がよいので、聞かれた場合にだけ、里親になることを告白する
  - b. 地域の行事などの機会を活用して、里親になるという決断に至った理由を説明し、その決断の喜びを共有する
  - c. 家族とあまり関わりのない人には、自分の決断については話さない
  - d. 里親の決断を社会に知らせるのは公的機関の責任である
4. ネットワーク内の相談相手リストを準備することは、
  - a. 危険である。その理由は、里親のみが里親の仕事に責任を持つべきであって、それ以上の支援を他から得ることはできないからである。
  - b. 里親としての新たな役割に対して否定的な態度を取る人たちを特定し、今後、顔を合わせないようにするために必要である
  - c. 有益であり、里親養育に対して前向きな姿勢を示す人たちのことをメモ書きして、リソースとしてどのような協力を求めることができるかを明らかにすることができる
  - d. 里親になるプロセスに関与する公的事務機関の職員を明らかにするという意味である。協力を求めるときは、里親はネットワーク外の人のみを検討すべきである
5. 里子養育に対する否定的な態度を取る人や里子全般に対する偏見を持つ人がいる場合は、
  - a. そのような人とのそれ以上の接触を避けることが賢明である
  - b. 激しく口論することで、自分の決断が正しく、心配無用であると思わせられる
  - c. 衝突を避け、単にその人の考えに耳を傾けるか、または、相手の気持ちを汲んで、里子と実際に合えば、考えが変わるかもしれないと、告げる
  - d. そのような人のことは気にせず、無視すれば、そのような人たちが、自分の里親として生活や子どもの幸福について絶対に口出しできなくなる